

# ケースミックスとパフォーマンスについて

## プロセス

- プロセスの「ばらつき」に関する検討…手術・処置、化学療法
- 診療プロセスの「妥当性」の評価
- 包括範囲についての検証: 化学療法、高額処置・材料など

## ケースミックス と パフォーマンス

- 複雑な傷病の診療を評価する「複雑性指数」
- 効率よい診療を評価する「効率性指標」
- 希少な傷病の診療を評価する「稀少性指数」
- 重症患者への対応状況: 副傷病スコア (Charlsonスコア)

## ストラクチャー (構造)

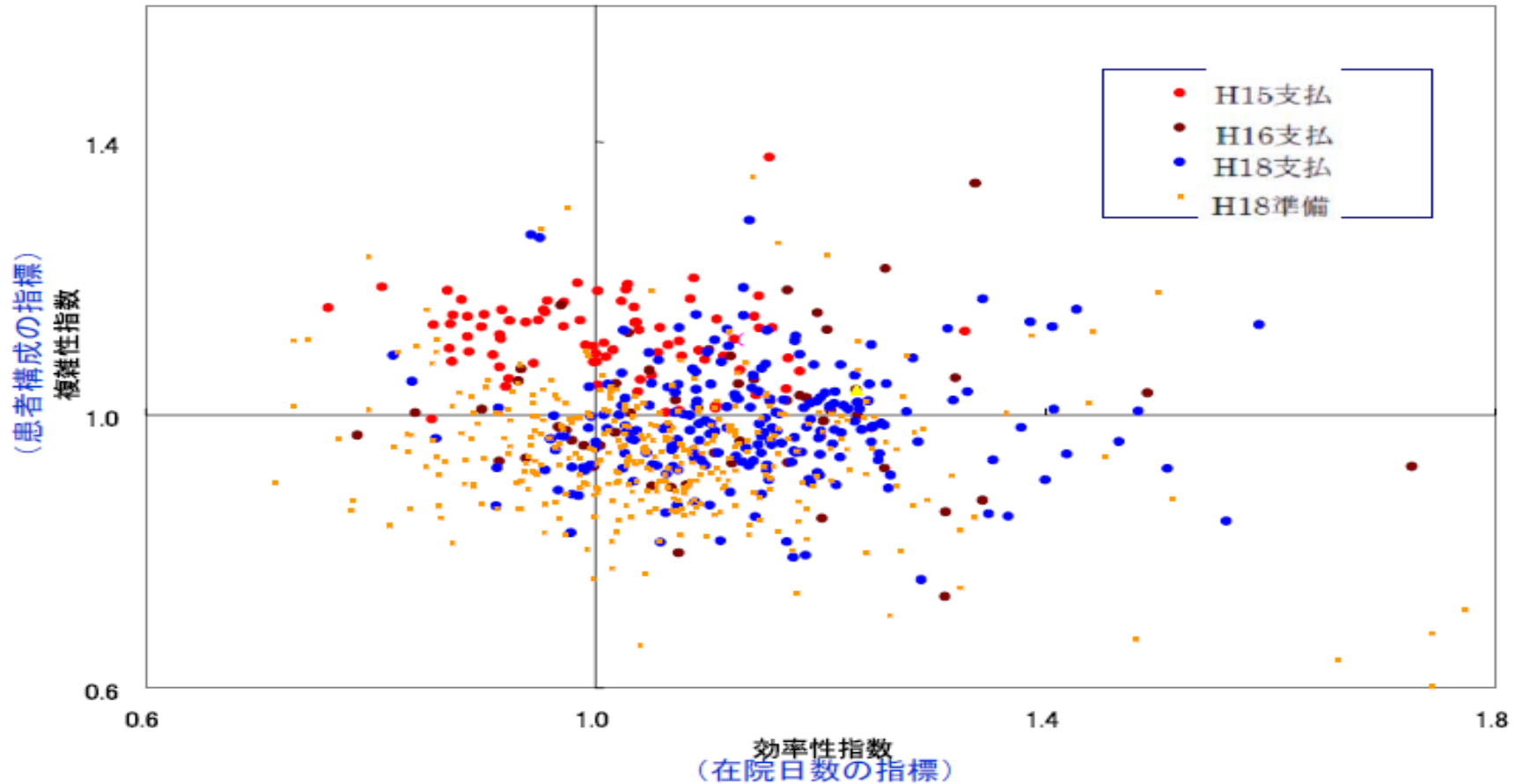
- 施設の外的基準→構造及び人的資源等についての調査
- 望ましい5基準の状況: 救急医療、ICU、画像診断、麻酔、病理…
- 診療情報の質の評価: EFファイルの適切性、ICD10コーディング…

## 地域での役割 (貢献度)

- 患者シェア、専門性、希少性の高い疾患、難易度の高い手術…
- 4疾病・5事業への対応状況

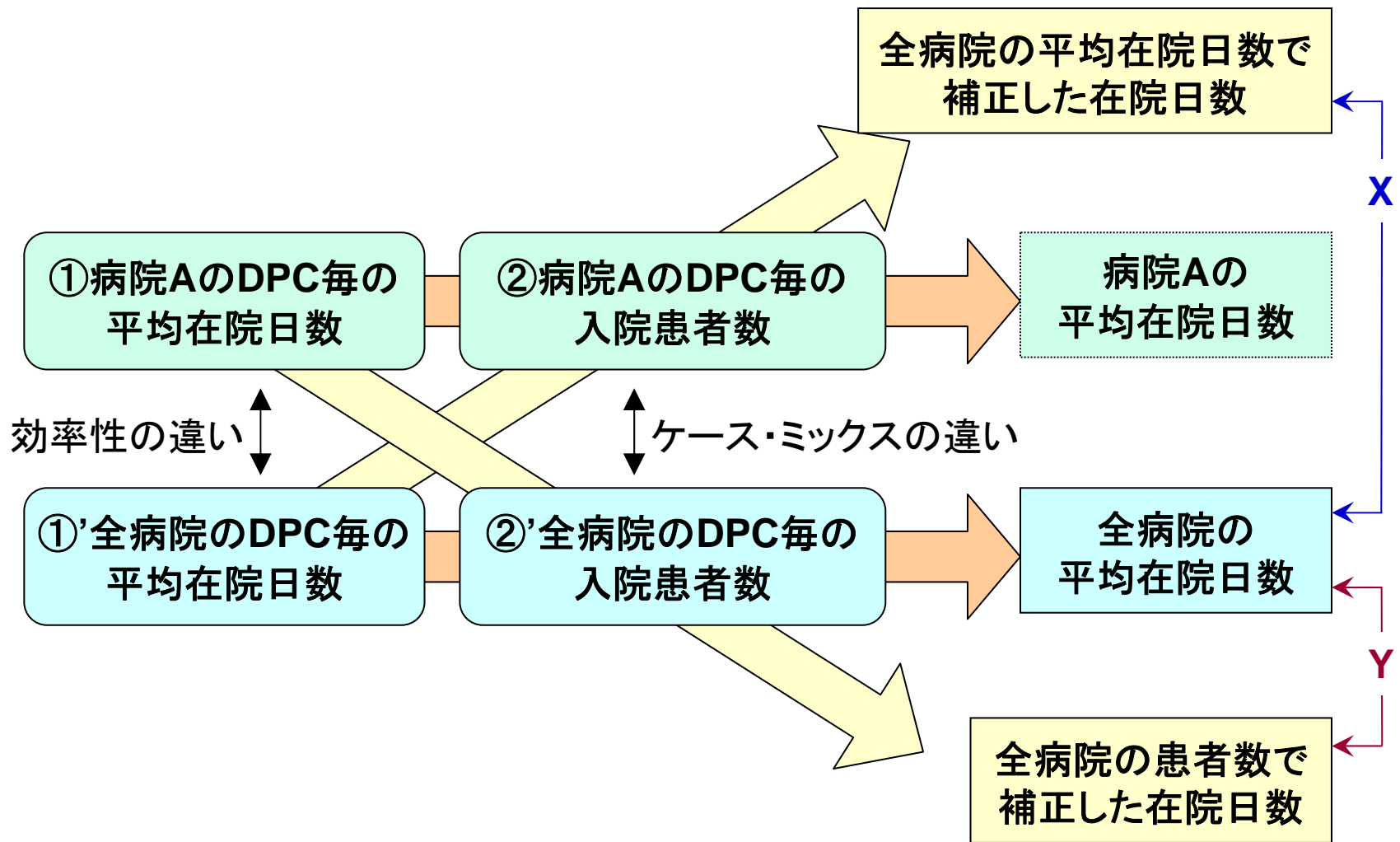
# ケースミックスとパフォーマンスについて1

## DPCを用いた病院機能の評価の例



複雑性指数 =  $\frac{\text{全病院の平均在院日数で補正した在院日数}}{\text{全病院の平均在院日数}}$   
効率性指数 =  $\frac{\text{全病院の平均在院日数}}{\text{全病院の患者数で補正した在院日数}}$

# (参考) 複雑性指数及び効率性指数とは



**X: 複雑性指数 (患者構成の指標), Y: 効率性指数 (在院日数の指標)**

## ケースミックスとパフォーマンスについて2-①

- 「複雑性指数」及び「効率性指数」に応じた評価を行うべきか。また、仮に評価するのであれば、評価の在り方についてどのように考えるか。

### <メリット>

- ・ 「複雑性指数」及び「効率性指数」については、病院の総合的な能力及び効率性を評価できるのではないか。

### <課題>

- ・ 「効率性指数」については、患者を早期転院又は退院した場合には、効率性が高まるが、患者のアウトカム評価と合わせて検証が必要ではないか。

## ケースミックスとパフォーマンスについて2-②

○ 難病や特殊な疾患等に対応できる専門性を反映した「希少性指数」に応じた評価を行うべきか。また、仮に評価するのであれば、評価の在り方についてどのように考えるか。

### <メリット>

- ・ 難病や特殊な疾患等に対応できる専門的医療が行われていることを評価できるのではないか。

### <課題>

- ・ いわゆる専門病院が評価されにくいのではないか。
- ・ 難病や特殊な疾患が必ずしも高度な医療を必要とするものではないのではないか。

## ケースミックスとパフォーマンスについて2-③

○ 「副傷病」の程度に応じた評価を行うべきか。また、仮に評価するのであれば、評価の在り方についてどのように考えるか。

### <メリット>

- 重症の患者を多く受け入れている医療機関をより評価できるのではないか。

### <課題>

- 診断群分類の分岐を行うことにより、既に副傷病に応じて評価しているのではないか。
- 副傷病の重症度に応じた重み付けの方法論が確立しているのか。
- 副傷病に応じた重症度の重み付けをどのように行うのか、評価が複雑になるのではないか。